

# どんびき

2007年4月3日発行  
発行者 椈の湖農業小学校

## 大和の国

桜の季節となった。

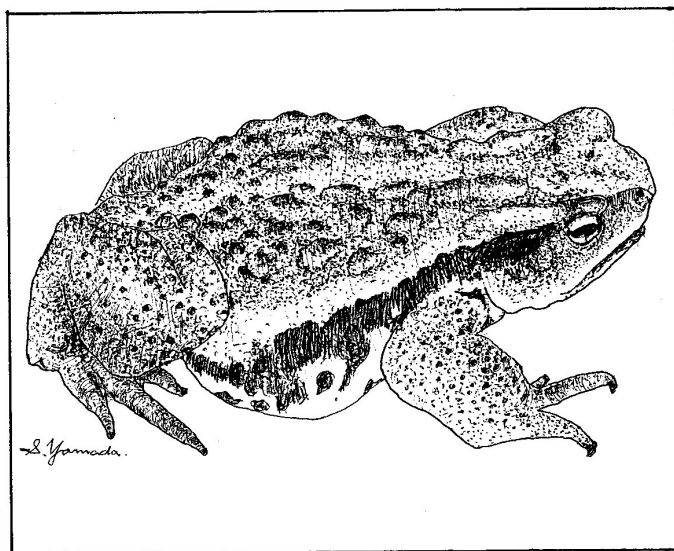
本居宣長が「朝日に匂う山桜花」と詠んだ「やまとごころ」を国家の為にパッと散るいさぎよさに摩り替えてしまったのは、明治以降の軍国主義の仕業だ。

元の意味はそうではなかったと思う。花は美しく咲きやがて散る。命の輝きの美しさを愛で、しかもその命にも終りがあることを承知した「もののあはれ」を解することであつたはずだ。

食料の自給率、とりわけ主食となる穀類の自給率の低い日本の生き残れる道は、戦うことではなく仲良くすることにしかないと思う。

日本人は元々「和」を尊ぶ民族のはずだ。「大和の国」なのだから。

今年も、胸はずみ、心和む桜がきれいに綺麗に咲きますように。(草)



山里の早春、水溜りを覗いてみよう。運が良ければヒキダたちの蛙合戦を観戦できる。多勢の雄どもが小勢の雌を巡っての争奪戦である。一夜明けると水底に紐状の卵塊がたくさん沈んでいて、これらから夥しい数の黒くてごく小さなオタマッコが誕生する。でもこの光景は、近来めっきり観られなくなった。ヒキダとはヒキガエルのこと。在来の蛙仲間では最も大型で風格がある。でも動きはのろまで素手で簡単に捕まえられる。いぼいぼでひんやり重い感触、手足の筋力の強いこと。ヒキダは蛙の中の蛙、どんびきの中のどんびき。

## 4月授業日のご案内

日程	4月15日(日)	服装	作業のできる服装
受付	9:00 ~ 9:30	持ち物	手袋、タオル、長靴、雨具、 買い物袋、お茶、箸
始めの会	9:30 ~ 9:45		食器(ご飯用、汁用、取り皿)
授業	9:45 ~ 11:00		
昼食	11:00 ~ 11:40		
椈の湖へ移動	11:40	郷土料理	タケノコご飯、かきたま汁等
椈の湖さくらまつり参加 (ゲキソウ・ジャ・ショウ・ビンゴゲーム等あり)			
終わりの会	15:30 ~ 15:40	締め切り	4月11日(厳守)
現地解散			
問い合わせ・緊急連絡	TEL 0573-75-4417 ・ 090-5110-9362 (山内總太郎)		
	TEL 0573-75-2109 (椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ		

## ～ 3月の農小レポート～

### 「第14期は濃霧の中で始まった」

3月25日(日)夜中の烈しい雨は夜明けには小降りとなって、カッパを着たり傘をさしての開校日となった。昨夜の風で吹き上げられたハウスのシートを直したり、テントを持ちに走ったりドロナワの準備作業が続いた。一番の失態は名札が作ってなかったことでこれは来月回しとなった。それに加えて始めて体験する深い霧につつまれて、近くまで来ながら場所・進入路が分からなくなってしまった家族が続出した。初めて愛車のフォグランプを点灯したというお父さんもあった。

時間を遅らせて入学式を始める頃には雨も小止みになってきた。校長の安保兄、中津川市加藤助役と姉妹校荒城農業小学校清水さんの挨拶の後、鈴木農場長の農場説明、先生スタッフ紹介とすすんで、グループの紹介になった。1グループから前に出て一人一言づつ話すなかで、あとのグループでは名前を言うてからの一言になった。先のグループの子達には悪かった。最後に雨のため取りやめていた校旗の掲揚を5・6年生にやってもらった。

最初の授業はグループ活動で、郷土料理の代表格五平餅を作って食べるものだ。炊きあげたご飯(うるち米)を釜のままスリコギで突いてそれを大握りしたものを配った。それをちぎって丸めて串に刺すのだ。それを持ち寄って素焼きし、さらにタレをつけて焼くとできあがりだ。来賓のみなさんも焼き手にくわわって協力いただいた。半分ほど焼き上がったところで、後はスタッフが引きうけて昼食になった。

昼食のメニューは五平餅、豚汁、春菊のてんぷら、竹輪のてんぷら、スティックセニョール(ブロッコリー)のマヨネーズあえ、玉ねぎスティックのみそマヨドレッシング、それと去年の暮れに安保校長が持ってきた大根を大慌てで漬けておいた沢庵。どれも美味しいと好評で、五平餅も豚汁も好きなだけおかわりしてお腹いっぱいになった。

お昼休みには安保兄の提案で焚き火をして、子どもたちはそれぞれに火で遊んだ。黙っていればいつまでも続きそうなので、空模様の怪しげなこともあって、終りを宣言。

午後の授業は畑の仕事の予定であったが、畑が昨日からの雨のせいで立ち入る事ができない状態となった為予定を変更した。農場長の野菜の説明と後日先生方にかわって作業をしてもらう話などを聞いた後、ニンジン・ゴボウ・ホウレンソウ・コマツナの種をそれぞれビニール袋に入れて子どもたちは手にとって色・形・大きさなどを観察した。続いてジャガイモの種芋を植える準備として、ちょこっと頭を出している芽を観察しながら、二つ割りに切って籾殻の焼いたの(木灰でも良い)を付けて切り口を保護した。

おわりの会では生徒全員にパンジーが一鉢づつ配られた。

場所を移して、桜「ソノサトキザクラ」の苗木を植樹した。これは長野県須坂市の信州すざか農業小学校豊丘校から贈られてきた黄桜の新品種である。子どもたちとの記念写真も撮られた。桜の木といっしょに大きくなって、友情と交流の花の咲くのが楽しみである。

～ あぼ兄の百姓ばなし～

## 「花 見」

入学式の日、日程の最後に農小のある椈の湖自然公園の高台の一角に、子どもたちと一緒に珍しい桜の苗木を植えた。

3月のはじめ、長野県須坂市の羽生田郁雄さんという方から「納めてください。」と電話があつて、後日、分厚い封筒と一緒に3本の苗木が送られてきた。資料を見て驚いた。羽生田さんは酪農家であり、須坂市の桜守りの会会員であり、なんと信州すざか農業小学校豊丘校の校長先生だったのだ。

須坂市の農業小学校は、椈の湖農小の姉妹校高山市の荒城農小をモデルに始められたものだ。文集を読むと市内の子を対象としていて、市産業振興課・教育委員会・公民館のバックアップで、羽生田さんをはじめ農家先生たちが運営・指導をされている。2年目の昨年は信州大学教育学部の学生たちもボランティアとして参加されていて、子どもたちの反応も良く、地域ぐるみの取り組みが羨ましかった。

その桜の苗木は須坂市豊丘上町で2001年に発見された枝変わり（突然変異）を羽生田さんが接ぎ木して育てたものだ。これは（財）日本花の会の調査により新種と判定され、地域の名園里をとって「ソノサトキザクラ」と名付けられた。黄桜の新種はとても珍しく日本で4番目の黄桜系八重桜なのだそうだ。

あぼ兄はこの苗木を3ヶ所に植えたいと考えた。1本はもちろん椈の湖農業小学校に。

もう1本は坂下の桜の名所椈の湖に。ふれあい村の管理棟の前に植えれば多くの人に観てもらえる。ここは39年前我々中津川地域の若者たちが開いた「全日本フォークジャンボリー」の地で、あぼ兄にはことのほか思い入れのある場所なのである。

あとの1本はあぼ兄の住む地域に19年度完成予定の新しい施設に記念樹として植えたくて只今仮植中である。これは10年前、信州大学名誉教授の玉井袈裟男先生の指導を受け「むらづくり実行委員会」を立ち上げ、中山間地域活性化事業として約15億の予算で基盤整備・農道・椈の湖からの用水パイプライン化などの工事をやり、最後に活性化活動の為の研修施設を建てるのだ。ここでは昨年からは農業小学校の定番にした、12月から2月の課外授業（しめ縄づくり・凧づくり・などのもの作り教室など）の会場として使用計画に組み込まれている。お世話になった玉井先生の生誕の地が須坂と聞いて、出会いのつながりに不思議さを感じている。

昔の農村では桜の花の咲き具合で農作物の出来を考え、満開の時に神様に酒などをささげたという。これはまた農繁期を迎える前に、弁当や酒肴を持って野山に出かける山遊びの行事でもあったらしい。

桜という言葉の語源として、「さ」は穀物の霊とか田んぼを意味し、「くら」は神様が座られる場所を言うことから、この名がついたという説もあるくらいで、桜が神の宿る木として信じられていたらしい。稲作とのつながりという点では、花の時期がある地方では田植え、また別の土地では苗代（種まき）などと農作業の時期を決める一番の目安となったことからであろう。

今のようなお花見は、平安時代には宮中の行事としてあり、江戸時代には武家だけでなく一般の人々の春の行事として広く定着していたらしい。皆が集まって、花を見ながら呑めや歌えやと楽しむのはどうやら日本独特のものらしい。

開花予想を迷走させた暖冬、心のこもった貴重な苗木を頂いた今年の花見、じっくり花を見ながら春一番地（山内酒造のしぼりたて）を呑むぞ。やっぱりあぼ兄は花よりだんごなのだ。

## 新入生並びに父兄の皆さんへ

椈の湖農業小学校第14期生の皆さん。入学おめでとうございます。

全国的にも殆んど例のない歴史を誇る農業小学校、この学校に入学された皆さんは大変幸運な人達だと思います。これにはご父兄の方々の深いご理解あつての事ですから、生徒の皆さんは感謝の気持ちを忘れないで下さい。

最近では各地に学校が出来ていますが、行政が中心となって立ち上げられた所がほとんどのようです。「私立 椈の湖農業小学校」は有志の方々の熱意の基に設立されていますので、内容的に束縛されない自由があります。

それでも長年続けていますと、マンネリになっている部分も多々ありますので、特に新入生のご家族の方々には、農小で経験したい事や体験してみたい事を、積極的に提案をして頂き、先生やスタッフの方々のアドバイスを受けながら、どんどん新しい授業内容に挑戦して行けたら良いと思います。

各地にある農業小学校とも交流を深め、情報交換により内容の充実を図り、歴史も内容も共に全国の模範となれるよう、頑張っていきたいと思ひます。

前年度の休学期には課外授業として、物作り教室を担当させて頂きましたが、やや参加者が少なくて残念でした。それでも参加した生徒さん達は、大変充実した時間が共有出来たように思ひます。

出来れば今年度は毎月の授業の中でも、簡単な課題に限り少しずつ取り組んでみたいと考えていますので、希望が有れば申し出て下さい。

また昔の遊びについても体験出来る機会を、作りたいと思ひますのでご期待ください。

今年一年共に頑張りましょう。

椈の湖農小スタッフ 小林

## 3月のレシピ

### 五平餅のたれの作り方

材料	濃い口醤油	180 c c
	さしみ醤油	90 c c
	みりん	90 c c
	砂糖	300 g
	卵	1 個
	落花生	50 g
	ごま	150 g

落花生、ごまを油がにじむくらいまで、すり鉢でよくすりつぶす。

に卵を加え、よくすり混ぜる。

に醤油、みりん、砂糖を少しずつ加えながらのばしていく。

たれを作るときの、基本分量は米1升(10カップ)に対して、醤油180 c c。好みの味になるまで、砂糖やみりんを加えていけばいいと思ひます。

濃さは、落花生、ごまの量で調整します。(すり落花生、すりごまでもよい)

卵は焼いたときの照りをだすため、入れなくてもかまわない。